

令和5年度三田市高校生議会 質問・答弁内容

議員名 (高校)	質問テーマ・内容	答弁内容
<p>⑨ 佐々木 瑠璃(有馬高等学校)</p>	<p>(再質問) 「情報発信には若い世代をはじめ、それぞれの世代に響く手法の検討が必要である。」とありますが、世代別にどのような手法が有効だとお考えですか。代表的な情報源といえば、ネットや紙媒体(新聞や文献)などですが、総務省の令和4年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書によると、「情報源としての重要度」は、20代から40代は「インターネット」と答えた割合が最も高く、10代、50代及び60代は「テレビ」と答えた割合が最も高いようです。その他にも新聞や雑誌などの項目もありましたが、インターネットやテレビの割合が圧倒していました。このことから、情報発信の手法としてネットワークを使うことが最有力と考えられます。現在、三田市にはLINE、Facebook、Instagram、YouTubeに公式アカウントがありますが、それらの年代別利用状況はどのようになっているのでしょうか。また、現在三田市で世代別に情報発信を工夫している具体的な例などはありますか。</p>	<p>(再答弁) 佐々木議員の再質問にお答えします。三田市が運営するSNS公式アカウントの年代別利用状況につきましては、LINEの登録者の傾向を見ますと、10代は2.6%、20代は8.8%、30代から60代までがそれぞれ20%前後となり、若い世代の登録者は少ない現状です。また、FacebookのフォロワーとYouTubeの視聴者について、35～54才が約60%で、30代～50代を推計しますと約70%となりますが、10代の利用数についてはとても少ない状況です。観光や市の魅力発信に活用しているInstagramでも傾向は同じであり、35～54才で50%を超えており、30代～50代を推計しますと同様に約70%を占めると考えています。10代については13～17才が約1%で、10代では非常に低い数値となっています。  このように10代の数値が大変低い状況になっていますので、高校生世代に向けた投稿をして利用状況を追っていくなど分析の必要性を実感しています。そのためにも、様々な工夫や取り組みが必要だと考えておりますし、この高校生議会をきっかけとして、市政に関心の高い高校生議員の皆さんや関係をいただきました皆さまにフォローしていただき、色々な声を聞かせていただくことで、SNSによる効果的な発信につなげていきたいと考えています。  佐々木議員におかれましても、ぜひ市公式Instagramなどをチェックしていただき、「#(ハッシュタグ)さんだスマイル」をつけて投稿していただいたり、気になる投稿</p>

令和5年度三田市高校生議会 質問・答弁内容

をリポストするなど積極的に活用いただき、まずは高校生に見てもらえるように高校生に響くアカウント運営にご協力いただければと願っています。

もう1つのご質問の世代別に工夫している情報発信につきましては、例えば、学生のまちづくり事業を担う若者のまちづくり課では大学生や若い世代を中心に登録していただいたメーリングリストを活用して、市のイベント案内や事業の周知を図っております。

引き続き、SNS等の活用をはじめ、「広報さんだ」「人権さんだ」などの紙媒体も活用し、広く市民のみなさんへ届く情報発信をまいります。

その上で、性的マイノリティに関する情報など、必要な情報が若い世代に届く工夫なども検討してまいりますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。